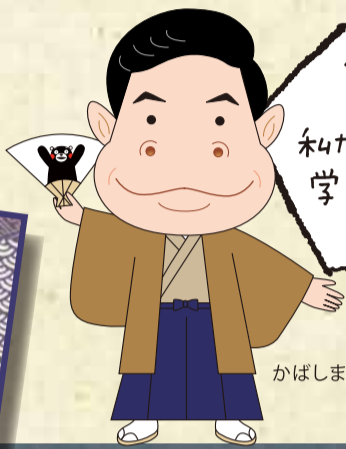


加藤家、細川家から 私たちに受け継がれる 文・武・美・知



今回は、加藤清正公と細川家から私たちに受け継がれていることや、学ぶべき先人の知恵について一緒に考えてみましょう。

かほしま知事

誇るべき
天下の宝
永青文庫

何百年も受け継いでるって、びっくりだモン!



細川家伝来の武具類・馬の鞍の中でも名品として知られている国宝「時雨螺細鞍(しぐれらてんへん)」。(永青文庫所蔵)

「永青文庫」は細川家の歴史の中で受け継がれた国宝や重要文化財を多く含む、古文書、美術工芸品の膨大なコレクションを誇ります。

細川家

武士も庶民も
机を並べた
時習館

重賢公は藩校「時習館」を創設し文武両道の教育を開始。士族だけでなく優秀であれば庶民の子弟も受け入れ、人材育成に努めました。



大部分が「時習館」だった熊本城二の丸広場

茶道の「肥後古流」は、今も千利休の古法を尊ぶ流派です。「肥後六花」は武士の精神修養として栽培された門外不出の花でした。



細川藩の筆頭家老だった松井家にも、能をはじめとした美術工芸品や古文書などが数多く伝わっています。(写真は八代市の松井文庫所蔵「能面 小面(こおもて)」)

茶、花、能
今も息づく
伝統文化

熊本の文化ってすごいモン!



行革の
お手本
宝暦の改革

重賢公は質素倹約を奨励し、有能な人材を登用するとともに、産業振興にも努め、藩の建て直しに成功しました。



産業振興として壺(はぜ)の生産を奨励。現在も水俣市の壺の実(木ろう)は全国有数の生産量を誇ります。

加藤・細川 ヘリテージ関連事業

今年有加藤清正公生誕450年。県では「加藤・細川」をはじめとした歴史・文化の再発見とPRに向けた取り組みを「加藤・細川ヘリテージ(遺産)」と位置づけて実施します。本年度、熊本県内で開催される事業を紹介します。

8月 ◆ 生誕450年記念展 加藤清正
～9.2

- ◆ 細川家と狩野派の美 ～9.23
- ◆ 鞠智城シンポジウム 8.26 / 熊本テルサ

9月 ◆ 細川コレクション
秋の名品コレクション展
9.11～10.28

10月 ◆ 細川コレクション
細川家の婚礼 10.5～12.16

11月 ◆ 細川コレクション
冬の名品コレクション展
11.3～12.24

- ◆ 熊本城下の青春
- ◆ 加藤清正生誕450年記念リレーシンポジウム(第3回) 11.25 / 県庁

H25
1月 ◆ 細川コレクション
春の名品コレクション展
1.2～3.24

- ◆ 細川コレクション 藩校時習館物語 1.9～3.24

2月 ◆ くまもと歴町50選決定

- ◆ 熊本県主体・または連携して実施
- ◆ 熊本県立美術館で開催 ◆ 熊本県近代文学館で開催

発展の
基盤となった
町づくり

清正公が新しく作った城下町は、商人たちが集まり急速に発展。その街割りは、現在の町の基礎になりました。



今も当時の名残を感じさせる新町・古町界隈。



アジアはそうとっながらいるんだモン!

アジアとの
交易で富む
肥後の国

清正公は、タイ、ベトナム、マカオと貿易。川尻は交易の基地として銀、刀剣が輸出されました。



川尻に今も残っている船着き場の跡。(国指定史跡)

緻密に計画
賢い治水、
道づくり

熊本城を敵から守るためと船で物品搬入をするため、白川と坪井川を改修。豊後街道の杉並木は、熊本城補修のためと、切り倒して街道を封じるためでした。



菊陽町や熊本市内の一部に残っている豊後街道の杉並木。

備えあれば
憂いなし」
の熊本城

清正公は「危機管理」のプロだったんだモン!



加藤家

熊本城内には多くのイチヨウを植え、置には芋がらを入れ、非常食として備えた、といわれています。



熊本城の別名「銀杏城」は、城内に多数のイチヨウが植えられていたからと言われています。